



## 聖木曜日 (ヨハネ 13:1-15)

イエスに従うために限界を設けない

シモン・ペトロはイエスに言いました。「わたしの足など、決して洗わないでください」(13・8)。「決して洗わないで」とは、たいへん強い言葉です。福音書を調べると、「決して」という強い言葉は、ほとんどの場合イエスの用いている言葉です。イエスが強い言葉を使うことができるのは、イエスにはすべての言葉に確信があるからです。

ところでペトロも「決して洗わないでください」と言ったのですが、ペトロにとってもこれからイエスがなさろうとすることは決してあってはならない、そのような行為は絶対に受け入れられないという確信があったはずです。

ペトロは戸惑い、混乱したのではないのでしょうか。それでもイエスは、ペトロの足元にかがみ、足を洗います。ペトロにとってあり得ない行動を、イエスは何のためらいもなく実行します。ペトロの中で、「自分の先生であるイエスはこうあるべきだ」という姿が完全に壊れました。

イエスは、ペトロの心の変化に十分気付いていたことでしょうか。イエスは、「自分はここまでは変わることができても、これ以上は変わらない」という壁が、まだあったのだと思います。イエスはその壁を壊し、ご自分が救いの計画の完成のためにすべてを与えつくす方であることを示そうとしたのです。

イエスが弟子の足を洗う姿は、どこまでも自分を与えつくす姿です。それは十字架上の姿、また最後の晩餐で制定された聖体の秘跡を予感させます。イエスをご自分を与えつくすのに、「これ以上は決してできない」という壁を作りませんでした。十字架上の死は、尊厳を一切奪われる最期です。ご聖体は、ご自身の姿が消えてなくなる秘跡です。何も残さず与えることを、イエスはためらいもなく実行なさいます。

弟子の足を洗い、わたしたちの食べ物となってくださり、尊厳も投げ捨てて十字架に向かわれるイエスは、わたしたちに「これはできない、これ以上は決して受け入れられない」というさまざまな壁を壊してご自分に倣うように招いています。

わたしたちは日々、イエスに倣って生き方を整えてきています。その中で、「これ以上は決して受け入れられない」という限界を作っていないのでしょうか。わたしたちの心の中にある壁は、よりイエスの招きに答えていくのに、妨げになっていないのでしょうか。

もしわたしたちに、自分で作った限界や壁があるなら、イエスにその壁を壊していただきましょう。今日イエスは、すべての人の前にひざまずき、限界の壁を壊し、より自由にイエスに従う人になれるように導いてくださいます。イエスの導きに自分を委ね、壁を置かずにイエスの声に聞き従っていく恵みと勇気をミサの中で願いましょう。